



American Airlines

JAPAN  
SOCIETY



東日盛園

United States-Japan Foundation



9/11  
Tribute  
Museum

## がんばろう東北 復興の折り鶴プロジェクト 第7回 NYから被災地へ復興の願いをこめ集めます

### 【主な行事】

#### 1. 東日本大震災3.11被災者と米国同時多発テロ9.11家族会の心の交流

米国同時多発テロによって沢山の同僚や家族を失った9.11家族会メンバーら4名が、被災者との対話を通じて、その悲しみを共有し、また、自らの体験からその悲しみをどのように乗り越え、未来に向かって歩きはじめたかについて東北の被災者に語ります。米国から災害精神科医や子供の心理カウンセラー、また9.11や3.11について更に学ぼうとしている米国の医学生2名と高校生2名も同行し、総勢12名で日米の被災者同士で復興に向かおうとする勇気とその心構えを共有をします。

福島県立医科大学、福島県相馬市「相馬広域こころのケアセンターなごみ」と福島県南相馬市仮設住宅住民、福島県立ふたば未来学園、福島第一原子力発電所、宮城県大川小学校のご遺族や日和幼稚園ご遺族と雄勝ローズガーデンや宮城県石巻市「震災こころのケア・ネットワークみやぎ からころステーション」などにおいて実施予定。

#### 2. 広島-NY-福島、日米つなぐ命の絵本「サダコの折り鶴」

震災後の影響が様々な形で現れている被災地の子供たちに対し、9.11と3.11をサダコの折り鶴が繋げるストーリーを長崎出身の本多恵理氏がNYで書き上げ、ロータリーが福島から出版した絵本の第2版を紹介します。絵本は9.11と3.11の被災者らが、国や文化の違いを超えて佐々木貞子の折り鶴によって結ばれ、励まされるという内容で、命の大切さを教える。協賛団体の協力を得て、福島県内の図書館、全幼稚園、全小学校に一万冊が寄贈されています。既に英語に翻訳され米国でも図書館や幼稚園に寄贈されています。今回第2版は更にスペイン語に翻訳され、スペイン語を母国語とする子供達にも配布予定。

#### 3. 希望の絆、「復興の折鶴」の贈呈

去年被災地を訪問した元ニューヨーク市消防士中尉のDan Pontecorvoさんが、東北の被災地の復興を願い、また被災者同士の絆を象徴して、一本の丸太から彫りあげた45cmの木彫りの復興の折鶴を今回訪問する家族会のメンバー達が、宮城県石巻市雄勝町ローズガーデンに贈呈します。雄勝ローズガーデンは被災した住民が立ち上げた復興プロジェクトで、9.11と3.11の被災者同士の交流の象徴であるこの復興の折鶴には、「2001年9月11日と2011年3月11日 希望の絆」と記されています。